教員個人調書等
記入要領

宝　塚　大　学

教員個人調書 記入要領

（その１）　「履歴書」

「履歴書」内の日付は全て西暦で記入してください。また、全てにおいて自書や押印は求めません。
「氏名 フリガナ」の欄 ……… 戸籍上の氏名で記入してください。旧姓名等通称名を使用している場合は
（　　）書きで旧姓名等通称名を併記してください。
「性別」の欄 ……… 男又は女を記入してください。
「生年月日（年齢）」の欄 ………年齢は、履歴書作成日時点の年齢を記入してください。
「現住所」の欄 ……… 住民票の住所を（郵便番号も併せて）記入してください。
「連絡先（自宅）・（携帯）、E-mail」の欄 ……… 連絡先を記入してください。
「写真貼付」の欄 ……… ６か月以内に撮影した写真を貼り付けてください。

「学歴」の欄

①　大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する方は、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入し、その他の方は、最終学歴について記入してください。
　また、資格等についても同欄に記入してください。なお、博士課程において、所定の単位を取得し博士の学位を授与 されないまま退学した場合は、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。

②　学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目も併記してください。

③　医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。（外国における資格の場合、その資格内容を日本語で併記してください。）

④　学生としての外国の大学や研究機関への留学歴についても記入してください。

⑤　外国の大学等の経歴を記入する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記入してください。職歴についても同様に扱ってください。

「職歴」の欄

①　すべての職歴（自営業、主婦、無職）を記入し、職名、地位等についても明記してください。

②　臨床経験等の職歴については、〇〇病院〇〇病棟 臨床指導者、主任、師長等、〇〇看護学校又は〇〇大学等非常勤講師など、役職も忘れずに記入してください。

③　各職歴について在職期間を明確にし、現職については、「現在に至る」と記入してください。

④　研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

⑤　過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた方は、同欄に当該教員組織審査に係る時期、大学名、職位及び担当授業科目名（大学院にあっては、判定結果を含む）を記入してください。

⑥　大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

「学会及び社会における活動等」の欄

①　「現在所属している学会」には、履歴書提出時点において所属する学会の名称を記入してください。

②　学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項について記入してください。

③　また、教育研究上の業績を有する方は、その内容を具体的に記入してください。

「賞罰」の欄

①　学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

「現在の職務の状況」の欄

①　履歴書提出時点における職務の状況について記入してください。

「職名」の欄

①　大学等の教員の場合は「教授」「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は「取締役」「理事」等の職名を記入してください。職名がない場合は「－」を記入してください。

「勤務状況」の欄

①　大学等の教員の方は、担当授業科目を記入ください。それ以外の方は、職務の内容を簡潔に記入してください。

（その２）　「教育研究業績書」

「教育研究業績書」内の日付は全て西暦で記入してください。また、全てにおいて自書や押印は求めません。
「年月日」「氏名」の欄
①　年月日及び氏名を記入してください。
②　旧姓名等通称名を使用している場合は（　　）書きで本名を併記してください。

「研究分野」の欄
①　科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを３つ以内で記入してください。該当がない場合、適宜記入してください。実務家教員の場合は「〇〇に関する実務」と記入してください。

「研究内容のキーワード」の欄
①　科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを５つ以内で記入してください。実務家教員の場合は職務内容を表すキーワードを５つ以内で記入してください。

［教育上の能力に関する事項］及び［職務上の実績に関する事項］の欄
①　担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項を年月日順（過去現在）に簡潔に記入してください。（項目例を参照ください。）

（項目例）
［教育上の能力に関する事項］
１．教育方法の実践例
・マルチメディア機器を活用した授業方法
・学生の授業外における学習促進のための取り組み
・講義内容の web 上での公開等
２．作成した教科書、教材
・作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「（再掲）」と表示）
３．教育上の能力に関する大学等の評価
・各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容）
・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
・学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
・学外の評価機関等が行った評価
・上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記入）　等
４．実務の経験を有する者についての特記事項
・臨床経験
・大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等）
・企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
・その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記入してください。
５．その他
・大学教育改善に関する団体等での活動の概要、教育実績に対する受賞歴等
・１～４に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください。

［職務上の実績に関する事項］の欄
１．資格、免許
・資格について、担当する教育の内容に関するものなど、特に職務に関連すると思われるものについて記入してください。
（例：　看護師免許取得　第　号、　保健師免許取得　第　号、　助産師免許取得　第　号）
２．特許等

・特許、実用新案等で担当する授業科目に関連した事項について記入してください。

３．実務の経験を有する者についての特記事項

・実務経験の記入方法については、「職歴」欄に記入した事項を中心に、担当する領域に対応した下記の事項を参考に記入してください。

① 従事した期間

② 職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）

③ 成果、結果

〇 医療施設等での研修会発表、症例研究会や委員会、その他の活動について

〇 企業、官公庁等の研究者の場合

・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要

・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割

〇 その他、企業・団体等関係者の場合

・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績

４．その他

・１から３に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください。

「研究業績等に関する事項」

「著書、学術論文等の名称」

・著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、年月日順（過去→現在）に記入し、区分ごとに番号を付してください。著書等は過去５年程度のものを中心に、主要なものだけ記入してください。
（実務家教員については、この限りではありません）

「概要」

・それぞれの概要について頁数を明確し、200 字程度にまとめて記入してください。

・共著の場合は、本人の担当部分（「タイトル」、概要及び掲載頁（P.〇〇～P.〇〇））を明記し、担当部分を 200 字程度にまとめた要約と、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書、学術論文等に記載された順（例：編者△△△△、分担執筆〇〇〇〇、□□□□、××××）に記入してください。

・本人の氏名には下線を引いてください。（例：△△△△、<u>□□□□</u>、〇〇〇〇）

・なお、担当部分を抽出するのが困難な場合は、「共同研究につき本人担当部分抽出不可能」と記入、若しくは、その理由を明記してください。また、筆頭論文である場合は、「筆頭論文」と明記してください。

著書、学術論文等で発行予定であるもの又は学会誌等での発表予定であるものについては、出版社や学会からのその旨の証明書を添付し、内容について記述をしてください。なお、書類提出時以降に投稿予定のものは含めないでください。

（以上）